

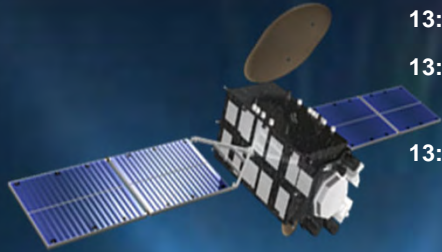


# 日本学術会議公開シンポジウム

3/20 日  
2022. 13:00-17:30

## グリーン・デジタルによる持続的食料生産： 環境保全型DX支援放牧のポテンシャル

場 所：TKPガーデンシティ鹿児島中央（鹿児島県鹿児島市中央町26-1）  
Room：屋久島（ハイブリッド開催）参加費無料・要事前登録



- 13:00 開会の挨拶 眞鍋 昇（日本学術会議会員、大阪国際大学、東京大学名誉教授）
- 13:10～13:45 「日本の放牧の現状と課題：周年親子放牧の普及に向けて」  
山本 嘉人（農研機構）
- 13:45～14:20 「放牧のポテンシャル：オーストラリアの放牧戦略と未来」  
（オンライン講演）  
Sabine SCHMOELZL（Commonwealth Scientific and Industrial Research Organization [CSIRO]、オーストラリア）
- 14:20～14:55 「放牧と家畜飼養と環境保全：科学的な放牧の検証」  
八代田 真人（岐阜大学）
- 14:55～15:30 「放牧と新しい農業ビジネス：現状と課題」  
小野 隆一（ツールバグループホールディングス株式会社）
- 15:30～16:05 「放牧におけるDXのポテンシャルと食肉生産」  
後藤 貴文（日本学術会議連携会員、鹿児島大学）
- 16:05～16:30 「医師から見た日本における放牧牛肉の可能性」  
斎藤 糧三（日本機能性医学研究所所長、医師）
- 16:30～16:45 「日本草地畜産種子協会の放牧認証の取り組み」  
田中誠也（日本草地畜産種子協会）
- 16:45～17:20 総合討論（座長 後藤貴文）  
コメンテーター：  
①木戸恭子（農研機構）  
②吉澤 緑（日本学術会議連携会員、宇都宮大学農学部・名誉教授）  
③木村直子（日本学術会議連携会員、山形大学農学部）  
④梶村恭子（農研機構）
- 17:20～17:30 とりまとめと閉会の挨拶

地球規模で進行している食料危機への対策として、原点にもどって人類が直接利用できない植物資源である粗飼料の活用によって高品質な食料の増産を継続性のある産業として具現化するべく本シンポジウムを企画しました。



問い合わせ先：シンポジウム事務局（鹿児島大学農学部 食肉科学研究室内）  
E-mail: k2816597@agri.kagoshima-u.ac.jp

主 催：日本学術会議食料科学委員会畜産学分会

共 催：公益社団法人日本畜産学会、一般社団法人日本草地畜産種子協会、日本産肉研究会

後 援：鹿児島大学農学部、大阪国際大学、家畜感染症学会

\*本シンポジウムは以下の機関からの助成により開催されます。

